



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2020年
No.4
事例2

疑義照会

薬剤の組成・性状



事例

【事例の内容】

患者は入院中に胃瘻を造設され、退院後は在宅治療を受けていた。ランソプラゾールOD錠15mg「JG」を含む9種類の薬剤が処方され、処方医から簡易懸濁法を用いて薬剤を服用するよう指示があった。ランソプラゾールOD錠15mg「JG」は、簡易懸濁法を用いると凝固してチューブを詰まらせる可能性があるため、水で懸濁する必要があることを医師に伝え了解を得た。

【背景・要因】

ランソプラゾールOD錠15mg「JG」が口腔内崩壊錠であるため、処方医は簡易懸濁法の適用が可能であると判断したと考えられる。

【薬局が考えた改善策】

製薬企業に問い合わせるなどして薬剤の情報を収集し、簡易懸濁法の適否を判断する。処方医にも情報提供する。



その他の情報

ランソプラゾールOD錠15mg／30mg「JG」の添付文書（一部抜粋）
【組成・性状】

添加物	乳糖水和物、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、軽質無水ケイ酸、L-アルギニン、クロスポビドン、ヒプロメロース、D-マンニトール、酸化チタン、タルク、メタクリル酸コポリマーLD、ラウリル硫酸ナトリウム、ポリソルベート80、アクリル酸エチル・メタクリル酸メチルコポリマー、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル、クエン酸トリエチル、マクロゴール6000他
-----	--



事例のポイント

- 簡易懸濁法とは、錠剤粉砕や脱カプセルをせずに、錠剤・カプセル剤をそのまま温湯（55℃）に崩壊懸濁させて経鼻胃管、胃瘻、腸瘻より経管投与する方法である。
※ 簡易懸濁法マニュアル（じほう）より
- マクロゴール6000の凝固点は56～61℃であることから、それより高い温度の湯を簡易懸濁法に用いるとマクロゴール6000が融解し、温度が下がった時に凝固してチューブを詰まらせる可能性がある。マクロゴール6000を含有するランソプラゾールOD錠15mg／30mg「JG」を簡易懸濁法に用いる場合は、55℃より少し温度が低くなってから崩壊させることが望ましい。
参考：ランソプラゾールOD錠15mg・30mg「JG」簡易懸濁法における崩壊懸濁試験及び通過性試験（日本ジェネリック株式会社）
- 簡易懸濁法を用いる場合は、添加物の性状も考慮して検討する必要がある。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。